



第42回受入れ Penticton - Okanagan, Canada 2010年4月16~23日

飛躍の年に

会長 峯 洋子

今年もはや七ヶ月。二月末には日本大会、四月にカナダの受入れ、五月～六月にはイギリスとベルギーへの渡航が終わりました。秋の予定としては十一月に松山で、西プロウク会議を開催いたします。現在鈴木さんを中心に準備が進められております。その後奈良クラブとの国内交流。昨年初めて郡山クラブとの交流があり、参加者全員感激して帰って参りましたが、今度は受入れ側です。日本語が通じます。私達の沢山のホステタリティーをお見せする番です。他には、三年越しの Pilgrimage Project が漸く動き始めました。先日、第一回目の会議が松山でありました。心の平和を求めてのお遍路、そして彼らを温かく受入れるお接待の心。この私達の素晴らしい文化を世界に知らせるチャンスが来ました。

初めてのFD(カナダ、ペンティクトンオカナガンクラブ受入れ)

FD 有光 佳代

今回、カナダ、アメリカ、オーストラリア、ペルの四カ国から合計十八名のアンバサダーをお迎えしました。一週間の埼玉クラブ滞在後、二週目は東京から大阪まで観光を楽しませ、愛媛クラブ滞在は三週目といつ長旅の上、高齢で健康に問題を抱えた女性ゲストが多く、最後の二週間はゆっくりしていただくこと、ゆるやかな日程を心がけました。

受入れホストの皆様のお宅では、それぞれのスタイルでステイを楽しみ、ホームパーティーホストの皆様のお宅では、家庭的な雰囲気の中、楽しい夕食のひと時を過ごされました。また、デイホストの皆様には、いろいろな場面でお力お知恵をお借りしました。そして、しまなみ海道、宮島、広島バスツアー、ウエルカムパーティー、能体験と、オフィシャル行事担当の方々には準備段階から大変お世話になりました。

初めてのことがばかりで戸惑うことも多々あり、その度毎たくさんの方々に相談に乗っていただきました。力不足で迷惑をおかけしたこともあったかと思いますが、無事終えることができました。本当にありがとうございました。

アンバサダー18名 ED 有光佳代
 スケジュール
 16日 大阪よりチャーターバスで松山到着
 17日 松山城(オプション)
 ウェルカムパーティー(担当 松葉睦子)
 18日 フリー
 19日 広島・宮島1日バス旅行
 (担当 川端満子、久保玲子)
 20日 道後散策(オプション)(担当 川端満子)
 ホームパーティー
 21日 フリー(大洲、内子、そば打ち、とべ焼きなど)
 22日 フリー
 「能」体験“鷲屋染物店”(担当 田中喜美子)
 23日 チャーターバスで伊丹空港へ出発

Daniela と Maruja



Maruja. 人間っておもしろい! 違うってすごい! そして笑顔ってすばらしい! 彼女たちが我が家に運んできてくれたものそれはお互いを受け入れようとする気持ち。あっという間の一週間だった。

有光 佳代

“Good morning ! ”
 “Buenos di’ as ! ” “おはよう ! ” いつのまにか朝の挨拶が三ヶ国語に。
 ルーマニア生まれの陽気な Daniela と日本に来るのが夢だったペルー人

トーク、トーク、トーク



柄、我々の英語に敏感。発音の悪さや文法のチェックを怠らぬ良き語学教師でした。二人とも日本人の親切さや文化を大いに賞賛、堪能したようです。その上本当におしゃべり好き。台所でも洗面所でも何だかんだと質問攻め、講義攻め。毎晩のワインに益々口は冴えわたり、眠い眼を擦りながらお付き合いをした、非常に面白く、しゃべり疲れた一週間でした。

石丸 明・和子

元土木技師のロイドと移民に英語を教えていたノーマ夫妻が我が家のゲスト。夫は建物に対する造詣が深く、珍しい建物や神社仏閣の写真撮影に夢中。片や妻は職業

キャサリーンのこと



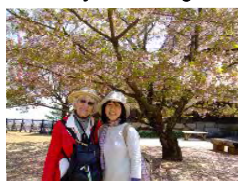
犬伏ちずる

アメリカのアリゾナ州スコッツデールから参加されたキャッシーさんは、季節はずれの寒さに“ cold! cold! ”と震えていました。初対面のときから、思った

ままに心の内を話す明るい性格の持ち主だと思いました。

「私のお父さんはインディアン」と言い、卵巣がんの化学療法で髪の毛を失った姿、少し伸びてきた時の写真など、自分の姿を率直に見せてくれました。「癌だと分かった時は泣いたけれど、乗り越えた時には南極大陸に行くかと夫と約束していたの。だから、南極大陸の思い出は特別のものになったわ!」病気が治った後“自分の髪の毛を寄付するため”に伸ばしているということ、他のメンバーから聞いた。そう聞いただけで生き方が分かるようだった。彼女の歩んできた道は色んな意味で平坦ではなかったことは想像できたが、彼女の口からはネガティブなことは一つも聞きませんでした。印象深い受入れでした。

My Starting Point



「昼寝」をしたり...(笑)

実は私、Penticton に行ったことがあります。「街のどこかですれ違っていたかもね!」Annaとそう言って笑いました。まだ19歳だった私がいつか自分の家庭を持ったら今度は私が受け入れをしよう!と決めた場所。私の大事な starting point です。

大谷 恵

真っ白な髪に赤いコートがとてもお洒落だった Anna。穏やかで上品な想像したとおりの人でした。一緒にいてとても楽で、同じ部屋でお互いずっと黙って違うことをしていたり、

笑いの毎日



には名前もわからない「普通のどこにでもある花」でも彼女たちには珍しいようだ。ステイ中、私たちにできるだけ迷惑をかけないようにしようと気を配っているのがよくわかる。楽しく笑いっぱいの一週間だった。二人とも「よく食べよく眠って」、古くからの友人のようなお付き合いができて楽しかった。

鈴木英紀・節子

Muriel と Ann はたいへん仲のいい女性。そして、おしゃべり大好き。いつも賑やかで笑いがいっぱい。そして花が好きで、どこに行っても咲いている花が話題になる。私

大好きなクリステル!



で車内でも待ち時間でもどこでも常に話している本

セブガン理恵

Christel の朝は、まだ暗く誰もいないリビングで数時間一人ソファに座ることから始まります。私が起きてくると “Good Morning!” と声をかけてくれ、それから眠りに就くまで

当におしゃべり好きなおばあちゃんでした。戦後、ドイツからカナダに自らの意思で移民し家族を持った彼女は非常に強く、常にユーモアを忘れない素敵な女性です。政治の話から戦争の話まで毎晩遅くまで主人も交え、アルコールと一緒に語り合いました。子供達もまた会える日を楽しみにしています。

高齢や持病も取越し苦労 中西 皓・フサエ



ゲストは Penticton から Helene (81)さんと南隣の町 Keremeos から Mary (65)さんのお二人。4月16日小寒い雨中椿神社へ到着、帰宅後、滞在中の予定説明・歓談の傍ら体力、健康問題を確認。結果は公式・自由参加・個別行事の全てに意欲的に参加、元気に帰国された。

20日夕、わが家でのホームパーティーは石丸明・和子、Lloyd & Norma Davis 両夫妻のご参加と三好郁子、松木紀子さんの強力なご支援を得て最高の盛り上がりとなった。子供や孫たちについての深刻な悩み、現役時代の思い出など話し、お互い人生を顧みる機会にもなった様だ。

日本人をお迎えて



中村 緒由美

Akiko という名前のとおり、バスを降りた途端に日本語をべらべらと喋る！しかもかなり微妙なところまで理解し、私の独り言もキャッチし、FFの受入れというより、まるで近所

の人がちょっとうちへ遊びに来ていと錯覚してしまいそうでした(笑)。できるだけ日本をトライしようというのではなく、日本人としての素が出ている、と言う感じでした。生のひじきを見つけて喜び、炊き方を覚えたいと言い、きびなごの刺身がきれいと言ってパクパクと食べていました。尾道から訪ねて来た従妹の家族とはにぎやかな大井戸端会議となり、20年ぶりの再会を果たしました。

シャーリーさんと4月の気候 三谷 睦



「今年は特別です。」何度口にした事でしょう。来日前にシャーリーさんから「松山はどんな気候？セーターや厚手のジャケットは必要？」というメールが届いた。その時は春らしい気候でしたので、日本は今一番良い季節です。とお気楽な返事をした。すると2、3日後から例年のない寒波がやってきた。椿神社でお会いしてすぐ「間違った情報をお伝えしてごめんなさい。今年は特別です。」と冒頭の言葉となった。

シャーリーさんはFFに入会して一年。今回が初め

での渡航。寒い日本の4月、満喫していただけたのが少々不安です。今回は私の体調不良でたくさんのデイホストの方にお世話になり有難く思っています。

デイホストに感謝！ 高原由紀子



カナダとオーストラリアの女性二人が私のゲスト。朝食のパンをトースターに入れたまま出し忘れてたりと失敗もありましたが、多くの素晴らしいデイホストの方々に恵まれ、無事に終了。センスの良い Theresa には、4人の子供と10人の孫がいて、出掛ける度に次々とお土産が増え、道後では娘さんの為に着物と帯

を購入。華奢で難病を抱えている彼女には、荷が重すぎるのではと心配しましたが、元気に持ち帰りました。一期一会の出会い？とはいえ、皆の心遣いは伝わったと思う。

83オのエセル

峯 洋子



今回のアンバサダーはメインのカナダ人以外にオーストラリア、アメリカ、ペルー人が加わった国際的な受入れとなり、その上高齢者が多く、今のFFの問題を凝縮したような exchange になりました。

我家のゲストは83才女性。注意事項に高血圧、心房細動症(毎日緑黄色野菜必要)スタミナ制限あり、階段昇降、重量物持ち上げ、遠距離歩行は無理。でも実際のエセルはカナダにいる87才のボーイフレンドの事で頭が一杯の元気なおばあちゃんでした。

パワフル！

渡邊ゆうこ



ベリーショートで太めのメービス、長身でスリムなアイネ、二人とも年齢よりも若々しくとても活動的。松山城では、アイネは行きも歩いて登りたいと希望する程。もちろん帰りはメービスも一緒に歩いて降りました。石手寺から道後温泉へも歩き、別の日には総合公園も一緒に歩きました。二人ともお箸をととても上手に使用して、なんでもよく食べて、材料や作り方にも興味津津。松山を離れた後は他のメンバーとは別行動でベトナム方面へ行き、全50日間の旅行をする二人は本当に元気でした。

デイホスト

- 松葉睦子、川端満子、久保玲子、佐藤学 & 洋子、澤田洋子、矢野和子、山岡佳巳、田中喜美子、井出博美、岡田偉子、三好郁子、栗林由美子、山内則子、松木紀子、森岡茂美、深石一夫、大西初美、大塚潤子、池田啓子、中村和子、田中ほとり、下条正司

ラッキーだった Exchange ED 峯 洋子

出発までのいくつかの困難を何とか乗り越え、British Airway のストライキの真っ只中を Heathrow 空港に on time に到着。13名はがらんだりの空港をすいすい通り抜け、あっという間にスーツケース。



それから何とか列車を乗り継いで 6 時間後の夜の 9 時、まだ明るい Durham でホストと対面。肩の荷が下りた瞬間。1 週間後に Durham から London を経由して又列車の旅。7 時間後にベルギーでホストと対面。素晴らしい 2 週間のホームステイでした。6 月 9 日成田空港に無事到着。そして松山空港。一仕事終わったという感じでした。

イギリス・ベルギーホームステイ 峯 英司

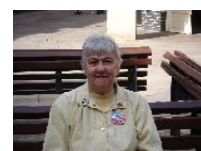
イギリスは引退した先生、ベルギーは引退した薬剤師にそれぞれホストをしていただいた。両国とも広大な平野に牛、



羊が遊び、住民は快適な住居に住み、公園や道路は良く整備され、医療費、教育費は原則無料、年金は無税で生活を楽しんでいると感じた。勿論消費税は 20% 近くと高く、現役のときは高率の所得税（ベルギーは 65% 税率）であるが、この豊かさはどこから来るのかなと思った。イギリスの富の源泉は金融活動であり、ベルギーは物流、商業とのことですが、製造業が衰退しつつある日本が今後何を富の源泉とするのか考えさせられるホームステイでした。

オリーブとフリーダ 石丸 和子

幸か不幸か、私のホストであるダーラムのオリーブとブリュッセルのフリーダは共に一



人住まいの 70 代の女性。倏しい暮らしの中で、自分の寝室を私のために明け渡してくれ、自分の仕事を休んで、常に私に寄り添い気を配ってくれた。料理らしいことはしない彼らの為にビーフシチューを料理して日本人の料理の腕前(?)を披露してきた。自分の家族や近隣の友達との交流を常に大事にし、お互いにサポートしながら生きている強い老人の生き方を垣間見るよい機会となった。

イギリスとベルギー 川端 満子

イギリスではフラワーアレンジメントの先生 Cynthia の所に滞在。お料理上手で世話好き。パートナーの Peter は物静かで穏やか。



大変居心地の良いホームステイだった。ベルギーでは現役で働いている Pierre と Martine の所に滞在。ゲストが居ても「普段通りの生活をする」という方針で、飾らない日常生活を垣間見ることができた。ベルギー語の存在しない国で 3ヶ国語を操らなくては生活できないのも事実。少し考えさせられた。



84歳の元ラガーマン 下條 正司

私達夫婦のイギリスでのホスト宅はダーリントン駅より車で約 15 分の閑静な住宅地。主のビルは 193cm の元ラガーマン、航空機関係のエンジニア、奥さんのパムは



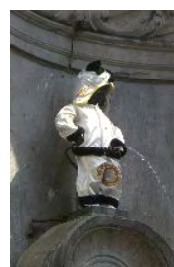
元教師。彼女の得意な絵が玄関、リビングを飾り、長男はプロの画家。ウィットビー訪問の途中スカーバラ港を案内してくれ集合時間に遅れた事。又当日のスケジュール終了後も、今は廃墟と化した製鉄会社、現在稼働中の化学工場などを迂回してまで案内してくれた。高齢と思えないバイタリティーに驚き、ホスピタリティーに恐縮、感謝しました。

初めてのホームステイ 下條 陽子

FF に今年 2 月入会させて頂きました。初めてのヨーロッパ旅行で、イギリス・ベルギーのホームステイ何もかも初体験でした。英語を話せない私でしたが、身ぶり



手ぶりで、次第に表情も和らぎお互いに笑顔も出て、通じたんだあ~と嬉しく思いました。車窓から見た広大な平野に菜の花と牧草のコントラストが強烈な印象のスタート。ピーターラビット館では童心にかえって一息。ベルギーは数々の世界遺産。写真で見てた通りの景色を実際に確認出来た事は素晴らしい旅でした。同行の皆様にお礼申し上げます。



三年ぶりの渡航

高原 由紀子



三年ぶりのFFの渡航だったこと、体調が今一つだったことで、いつになく参加することに迷いがあったが、案ずるより産むが易し、気候が良かったので、特に問題はなかった。相変わらず、ことばに自信がなく、この旅の大きな目的である現地の方々とのコミュニケーションが十分とれなかった。自分自身どこか消化不良で、時に閉塞感があり、ホストの方々にも満足してもらえなかったと思う。FF愛媛の方々には、何かと気を使っていたが、楽しい旅となりました。

ホームステイ初体験

玉井 哲治



我々二人は今年3月入会のピカピカ(?)の新会員、ホームステイするのも初体験、しかも我々だけが3ホストでのステイである。不安と期待が交錯する旅立ちだった。結果は「案ずるよりも・・・」で懸念の腰痛も何とか持ち堪え、思い出深い貴重な初体験を終える事が出来た。イギリスでは豊かな自然に囲まれた牧歌的環境の中、穏やかで包容力のある元教師夫妻と共に居心地良い一週間を過ごした。又ベルギーでも2ホストの家庭で一週間を過ごした。いずれのホストもリッチな家庭で少し気疲れするところも有ったが人々の陽気さや、気さくな対応に会話も弾み短くさえ感じる一週間であった。

初参加

玉井 培子



今年入会直後のホームステイであり、しかも英語は喋れず不安一杯のスタートでした。以前に高校生、大学生を受け入れた時の様に“必ず心は通じる”の思いで夫について行く事にしました。私のコミュニケーション法は“キッチンを手伝う事しかない”と思い厨房に入り込みました。効果抜群!お互いの生活習慣や食生活の違いが分ると同時に男性のアシストが当たり前になっているのに驚きました。我が家でもほんの少しイギリス式であって欲しいものです。日本文化紹介の一つとしてタルトで抹茶を一服点ててみましたが、初めてのお味の程は・・・?でした。

元市長さんのカップルと一週間 中村緒由美



モスクワ以来7年ぶりの渡航参加で、お灸と線香を握りしめ(笑い)足の不安と、5月の花のきれいなイギリスや初めてのベルギーへの期待とがない交ぜになった出発でした。ロンドンから列車で3時間、菜の花畑の黄色と牧草や麦畑の緑とのパッチワー

クを広げたような景色が続き、Durham 駅に到着。Nora と Bob が迎えてくれた。Nora の家への車中、お二人と話しながらお二人の優しさと穏やかさを感じ、そしてそれは最後まで変わらなかった。翌日の市長訪問の時に分かったのだが、Bob こと Robert は2007年のMayorで、Nora は Mayoress だった。恐縮してしまったが、一度もそんなことを感じさせないお二人と、とても楽しくゆったりと一週間を過ごさせてもらった。

イングリッシュ・トラディショナル 安田 京子

FF新会員として初めてヨーロッパを旅しました。英語音痴の私に、退職の記念にと声をかけてくれた勇気ある?友に感謝・感謝です。イギリスのホストは、嘗てアンドリュー王子の結婚式で活躍されたフラワーアレンジメントの先生で、NFDで学んでいる私にとってとてもラッキーでした。手入れの行き届いたイングリッシュガーデンに佇み、その花を摘んでカルチャー講座に同行してホスト・シンシア先生の講義を受けたり、教会のフラワーショーを観に行ったり、本場イギリスのフラワーアレンジメントを堪能した感激のステイでした。



初めてのホームステイ

山内 則子



退職後の人生は海外旅行と決め込んで、この4年間で15ヶ国ほど旅行を楽しみ十分満足していた。しかしそれらはすべて添乗員任せのツアー旅行ばかり、しかも大半は夫と一緒にだったので、今回のイギリス・ベルギーのホームステイは、緊張感と外国の生の文化に直接触れ得た喜びと感動で味わい深いものでした。ステイ先での感動が強いせいも、美しい観光地の印象は全くといっていいくらい薄く不思議なほどです。しかしホームステイ先でのいろいろな体験や感動、ホストとの心のふれあいは生涯の財産を得た思いで、今もまだその感動覚めやらぬといったところです。

心に残るホストファミリー

吉森 新子

伝統を重んじるイギリス人は、どんな生活をしているのかなと思い、今回の渡航に参加しました。イギリス人のメアリーは世話好きで私が快適に過ごせるように気を使い、夕食はイギリス人がよく食べるものを用意してくれ、食事を楽しみました。食事は質素ですが、家具などは時間をかけて良い物を探し、大切に使っていました。ベルギーのジュディは明るく活動的な人で、毎日を精一杯生き、生活をエンジョイしていました。家内外のインテリアのセンスがよく感心しました。料理もうまく、夕食が楽しみでした。



石手寺界限散策記

結城 邦溥

1. 日時： 4月1日(木)10時集合
午後2時ころ解散予定
2. 集合場所：道後温泉駅坊ちゃんカラクリ時計前
3. 散策ルート：カラクリ時計前～椿の湯～道後温泉本館～宝蔵寺～伊佐爾波神社～石手寺～道後公園(湯築城跡、中世武家屋敷、湯釜薬師)
4. 持参品： お弁当、飲み物(道後公園で花見)
(このようなメールが3月上旬 担当の佐藤学さんから皆様へ送られました。)



4月1日の朝は、ぐずついた雨模様で始まった。「傘を持ってきてください」という学さんの言葉に、なみなみならぬ意気込みを感じる。百円傘を持って出発。

私はフレンドシップの泊研修と忘年会には、だいたい参加してきた。近場が好きだから。若い頃は(今も若いけど・・・)離れたものに魅かれた。だからフレンドシップに参加したと思う。最近、どちらかというとならぬ近場に興味がわく。いろいろな意味で・・・。

道後駅の集合場所では、同じ思いの仲間が濡れた雨具を持って指示を待っていた。当日の綿密な行程発表。まずは道後本館。学さんの説明にそれぞれに準備された図面を見ながらうなづく。見慣れた本館の建物に秘められた細工。近場も奥深い。(ここからは手短に・・・)

雨が降ったり止んだりする中、訪ねた主などこ

ろ。宝蔵寺、伊佐爾波神社、スパー、松葉さんのお宅、石手寺、・・・等。

印象に残ったもの。元気な学さん、優雅な雑飾り、みんなでわいわい弁当たべたこと、石手寺までの小道、もちろん石手寺、石手寺からの裏道、傘を忘れず持って帰ったこと。

よく歩いて、足が少し疲れたけど、楽しかった。今度はどこに行くのかなあ。

参加者の皆様 大坪夫妻、中西夫妻、下條夫妻、光宗、結城、鈴本、川端、大谷、有光、久保、中村和子、渡邊、三谷、松葉、佐藤夫妻 以上19名。(敬称略)

第二十三回日本大会

於 奈良新公会堂

二月二十七日は会議・懇親会共に代表者のみで会長峯洋子と佐藤洋子が出席。二八日の全体会議は峯英司も加わり、広い能楽堂で奈良の会員も含め全クラブ二三〇名の熱気溢れる大会となりました。

代表者会議もパネルディスカッションを主体として進行了た全体会議も、高齢化問題に行き着く感がありました。奈良会長大西さんの絶妙な司会にはただただ感心しました。峯会長もパネリストとして頑張りました。

昼食時ブラウン会長に呼ばれ、要請を受け広島森川会長と「平和と祈り、巡礼」を組み合わせたホームステイのformat 作りに向けて協力を約束しました。

平城遷都一三〇〇年に沸く奈良観光もお水取り初日の行事もカットして帰松しなければならず残念でした。

(佐藤洋子)

World Friendship Day 2010 に参加して 大塚 潤子

参加者 27名 (メンバー以外の方8名)

2月のある日の午後、
行幸部担当の中村さん
よりワールドFFデー
へのお誘いの電話を頂
きました。2007年の
夏に入会して以来ウェ
ルカムパーティーやデ



イホスト、料理教室など色々経験させて頂きま
したが、この会は初めてなので興味津々といっ
た感じで参加しました。(まさか、この原稿依頼
が来るとも、露知らず。)

会員以外の方の参加は8名で、終始和やかな
雰囲気、会の紹介や活動内容に耳を傾けてお
られたようです。活動の紹介においては、写真
などをスクリーンに映しながら、楽しかった体
験談などを話して頂きました。私にとっても懐

かしいフロリダの方々とのパーティーや、ニュー
キャッスル(オーストラリア)の方達のお供で行っ
た広島旅行の写真などがありました。

これらの紹介や楽しいFFの交流などのお話
を通して、この会に初めて来られた方々や以前から
興味を持って見ておられた方々も、大変良い印象
を持たれたのではないかと思います。この機会に、
一人でも多くの新しいメンバーが増えるといいな
あと、心から願っています。

バリ島のフェスティバル 大坪 絢子 (4/13~17 東京クラブ8名と共に参加)

今年のフェスティバルがバリ島と聞き、憧れ



の地への参加をす
ぐに決めました。常
夏の現地は30度
を超えて蒸し暑く、
朝から汗が滲みま
す。寺や民族村、大
学や美術館、買物と、

目白押しのスケジュールの中で、圧巻はロイヤ
ルファミリー主催の晩餐会でした。バリウブド
地区は今も王室が統治していますが、そのプリ
ンセスとアリフィン氏(今大会のリーダー)が
留学仲間だった縁で、招待が実現したそうです。
食事はバイキング形式でワインも極上、事前に
王様が料理を見回って、シェフにアドバイスし

ていた姿が印象的でした。初の「謁見」体験で
の、王様と王プリンセスの気さくな笑顔が忘れ
られません。

今回は東京クラブ
の8名と御一緒に、ど
んなに心強かったか
知れません。余村さん
を始めとする皆さんのユーモア溢れる会話が、
我々夫婦の旅を何倍にも膨らませてくれました。
FFって何て素敵なクラブでしょう!



《《 '10 年度前半行事報告 》》

1/24 コムズで遊ぼう 2/7 春季総会、会報 41 号発行 2/27-28 日本大会参加 3/6 FF ワールドデイ
4/1 ハイキング 4/13-17 パリ・フェスティバル参加 4/16-23 受入れ:Penticton-Okanagan(Canada)
5/24-6/9 渡航: County Durham, UK & Brussels-Pajot, Belgium

《《 '10 年度後半行事予定 》》

8/1	夏季総会 会報 42 号発行
10/2,3	一泊研修 宇和町方面
10/16-18	世界大会 於: ワシントン DC (米)
11/6-7	西日本ブロック会議 担当: 愛媛クラブ 会場: にぎたつ会館
11/ 29-30-12/1	国内交流 受入れ: 奈良クラブ
12/5	忘年会
1/19	料理の会 (計画は 2010 年にして実施を 2011 年にします)

2011 年度受入れ・渡航交換予定

受入れ: Freiburg and Vogtland, Germany (4 月後半)
Eastern Washington- Northern Idaho, USA (秋)
渡 航: Nairobi, Kenya

春季総会後の新入会員の皆様 山内則子、長友春日、徳岡弘子、入船良子 (敬称略)
“ FF 活動に楽しく参加して下さいね。”

会員近況報告

大洲市 高瀬吉孝

How fast the time goes! 1989 年に入会し、約 20 年になります。残念ながら、acrophobia のこともあり、受入れ中心の楽しい交流活動をさせて頂きました。短い期間ですが、相互に異文化を享有する者が、家族の一員として「寝食を共にする」生活は素晴らしい国際的体験であると思いました。



私のモットーは、If you try, you can do it! です。FF 愛媛の会員であることに誇りを感じ、会長さん、役員、そして会員の皆様に深く感謝申し上げます。

新入会員紹介

松山市 安田京子

定年退職を迎えた今年、イギリス・ベルギー渡航を機に入会いたしました。川端マジックにかかり、参加させていただきましたが、同行の会員の皆様やホスト家族の人柄・温かさに、FF 活動のすばらしさを実感いたしました。友に感謝です。



英語自立ができない私にとって渡航も受入れも恐怖ですが、“変わらなきゃ”を合い言葉に、世界に繋がっていきたいと思います。どうぞよろしく願います。

2010 年入会

編集後記

FF 愛媛の様々な活動の様子を詳しくお伝えしました。楽しんでいただけたでしょうか？唯一つ残念なことは写真をカラーで載せられないこと。「より魅力的な会報」を目指して、工夫をしなければと思うこの頃です。

編集発行 2010 年 8 月 1 日

フレンドシップ・フォース愛媛 No. 42

編集者 川端、池田、久保、田中(喜) 峯

〒791-0243 愛媛県松山市平井町 3157-185

T & F 089-975-8316